

2020年の夏

茗溪塾塾長 長谷 誠基

「夏は受験の天王山」・「夏を制する者は受験を制す」など、受験生にとって夏の過ごし方が非常に大切であるということは、昔から語られてきました。今年の夏は今までのようにはいきませんが、夏の学習が重要なことは変わりません。塾では9月から志望校別特訓や過去問ルームなど志望校に向けた対応が始まります。それから外部の模擬試験も本格的に行われます。つまりアウトプットの数が増えるのです。そこでこの夏に今までインプットしきれなかったものをやり直し、それをアウトプットするための練習をすることが必要です。特に基礎を固めることはぜひ意識して取り組んでほしいことです。土台(基礎)がしっかりしていないまま、入試問題に取り組むようになると全く歯が立たないだけでなく、やり直しにも多くの時間を割かなければいけないのは言うまでもありません。秋以降の勉強を効率よく進めるためにも、まずは各教科の基礎固めを行いましょう。また、考えるレベルを一段階上げる練習も必要です。今まで中心になっていた單元ごとの学習と実際の志望校の問題とは少しレベル差があるものです。その差を埋めるために思考のレベルを上げる必要があります。これは授業の中で先生と一緒に問題に取り組むことがその練習になります。授業でもお盆集中特訓でも先生に質問できる時間が必ず作ってあります。自分で問題を解いてやり直しをし、わからない問題は先生に聞いてもう一度自分で解き直す。この勉強のやり方をどれだけ早く身につけられるかが、秋以降の成績の伸びを左右するものになります。夏の成果はすぐに出るものではありませんが、ここで頑張ったことが必ず秋に成績の上昇となって現れてきます。夏の暑い時期に、可能な限りの学習時間を作り勉強していくのは口で言うほど簡単ではないと思いますが、ここで頑張った経験が秋以降の壁を乗り越えるときの自信になります。「あれだけやれたんだから…。」と自分で思えるようにしてほしいと思います。先生達も最後の受験への送り出しの時に、「みんなはあの夏を頑張ったんだから…。」と話すことがあります。それだけこの夏の学習は密度の濃いものなのです。受験生の皆さんは学習面でも気持ちの面でも重要なこの夏をぜひ有意義なものにしてほしいと思います。受験学年以外みなさんは、一学期の内容で完全に理解しきれなかった部分をやり直すチャンスです。特に今年は学校での授業の進度が例年より早くなることもあると思います。十分に練習を積まないまま次の単元に進んでしまう、ということもあるかもしれません。そういう単元をできるだけなくしておくことが今後の学習の理解度を上げることに直結します。今月の個別面談では進路と夏の学習について細かくお話しさせていただきますので、率直にご相談ください。お子様にとってより良い夏にするために先生たちも頑張ります。